



2010/冬 #1

発行：伊勢市立伊勢図書館

伊勢市八日市場町 13-35

TEL.0596-21-0077

<http://iselib.city.ise.mie.jp/>

中高生版としょかん News



カレンダーも残すところあと1枚となりました。
 みなさんはやり残したこと、やりたかった事はありませんでしたか？
 学生生活においては、色んな悩みをもった年であったかもしれません。
 友だちとうまくいかなくて悩んだり、みんなが話しているところに入っていきづらくて孤独感を味わったり・・・。
 人と人のつきあいは難しいものです。
 相手にとって良いと思ってした事なのに、実はそうではなかったり。
 相手の気持ちを理解する事と同じくらい、自分の気持ちを伝える事は難しい——
 でもほんの少しのきっかけや、ほんの少しの心配りでうまくいくことがあるかもしれません。
 そのヒントが本の中で見つかるといいですね。
 今回はそんな本を紹介します。



『ビーバー族のしるし』

エリザベス・ジョージ・スピア/著

こだまともこ/訳 あすなろ書房 933/ス

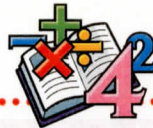
1768年の冬、13歳のマットは父親と新しい土地を目指して森で暮らす事に決めます。慣れない大自然での暮らしは、マットを不安にさせます。そんな中で、彼を助けてくれたのが、インディアンのおじいさんと少年でした。マットは少年に英語を教える事になりましたが、マットはインディアンの少年から言葉以上にたくさんのものを教えてもらいます。



『博士の愛した数式』

小川洋子/著 新潮社 9136/オ

事故で80分しか記憶を保つことができなくなってしまった天才数学者。そこへ派遣された家政婦とその息子。3人が同じ時を過ごす中で互いを大切に思う気持ちが生まれていきます。



『失はれる物語より Calling you』

乙一/著 角川書店 9136/オ

クラスで目立たない女子高生のリョウは、携帯電話を持っていません。なぜかという、買っても誰からも電話がかかってこない現実に直面するのが怖いから。そのかわりに頭の中で自分だけの携帯を想像する事が楽しみでした。ある日、頭の中の電話にシンヤと名乗る男の子から電話がかかってきます。

他にも5つの作品が入っています。



『もちろん返事をまっています』

ガリラ・ロンフェンテル・アミット/著

母袋夏生/訳 安藤由紀/絵 岩崎書店 929/ア

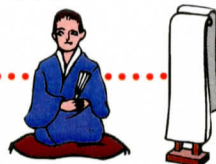
小学5年生のノアが、文通をはじめます。相手は同じ年で、脳性まひのために、特別な学級に通っている男の子ドウディ。二人は文通が続き、ノアはドウディに会いたいと書くのですが、ドウディからは返事がきません。二人は手紙で気持ちを十分に伝えあえるのでしょうか。それとも、言葉では伝えきれないことがあるのでしょうか。



『しゃべれどもしゃべれども』

佐藤多佳子/著 新潮社 9136/サ

頑固で気の短い落語家、ニツ目の三つ葉のもとに、自分を表現することが苦手で、世の中とのつながりをつくることのできない4人が弟子入りします。簡単なことは進まず、けんかをしたり、人と人がつながるのは骨の折れることだと感じさせます。でも、知らず知らずお互いが理解しあい、思いやり・・・。読み進めていくのが楽しい本です。



『伴走者たち 障害のあるランナーをささえる』

星野恭子/著 大日本図書 369/ホ

視覚障害者、自閉症、義足の人など障害のあるランナーを支える伴走者。彼らは視覚障害者の場合には、道の状況などすべてを言葉で伝えるなどランナーに安心して楽しく走ってもらいたいと考えます。そのため、相手の立場に立って考えることがどんなに大切な事か教えてくれます。

自分の伝えたい事を伝えるためには、言葉と同じくらい大切な事があるのです。



寒い冬は図書館で過ごしませんか？
 本との出逢い、人との出逢いは心をあたたかくしてくれます。

冬はおうち読書もおすすめです。
 勉強の合間にちょっと気分転換してみませんか？

*伊勢図書館1階・ティーンズの本棚には、
 ここで紹介しきれなかった本もたくさんそろえてあります。

